



## 2023 AUTOBACS SUPER GT Round3 SUZUKA GT 450km RACE REPORT

カテゴリー	:GT300
カーナンバー	:9
エントラント名	:PACIFIC RACING TEAM
マシン名	:PACIFIC ぶいすぽつ NAC AMG
タイヤ	:YOKOHAMA
ドライバー	:阪口良平、Liang Jiatong、川端伸太郎
レースクイーン	:Pacific Fairies
開催日	:2023年6月3日-4日
会場	:鈴鹿サーキット (一周5.807 km)
天候	:6月3日 ☀(DRY) 6月4日 ☁(DRY)
気温	:6月3日 25°C 6月4日 28°C
路面温度	:6月3日 39°C 6月4日 41°C
参戦車両数	:GT500/15台 GT300/27台 合計42台
Best Lap	:2'01.113
Q1(A Group)	:10位/14台
Q2	:-
決勝	:24位/26台



華麗なる復活に注目が集まるも  
あと一歩及ばずの悔しい結果に。

## 事前情報

今年からはGT300クラスへMercedes AMG GT3で参戦。

女性バーチャルYouTuberグループ「ぶいすぽっ！」とタイアップしたスポーティでポップなカラーリングには大きな注目が集まる。

Rd.1岡山にてクラッシュした影響でRd.2富士を欠場しその去就に関心が寄せられていたが、今回のRd.3鈴鹿から復帰することとなった。5月8~9日に鈴鹿サーキットで行われた専有走行テストにも参加しておらず、ぶっつけ本番でレースへ挑む形となった。

ドライバーは阪口良平、Liang Jiatongに加え第3ドライバーとして川端伸太朗が参戦。川端の参戦は2022年に続き2年目。

前日の暴風雨もあり天候が心配されたが、快晴となりドライコンディションで迎えた予選日3日。5分遅れの9時15分に始まった公式練習では、阪口、Liang、川端がそれぞれ走行し、ベストタイムは阪口がマークした1分59秒252。トップの車両と1秒908差の23位につけた。

## 公式予選：Q1 Aグループ



GT300クラスの予選は、シリーズランキングにより14台のA組、13台のB組に分けられ、PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMGはそのうちA組に区分された。このQ1の走行でトップ8に入ればQ2への進出となる。

AMG GT勢が4台揃い踏みのQ1 Aグループは20分遅れの15時25分に走行スタート。

序盤、Q1通過射程圏内に食らいつく走りを見せるも結果は1分58秒449を記録し14台中の10位。残念ながらQ2への進出は叶わなかった。

## 決勝



初夏の暑さを感じる決勝日、Q1を突破できなかった9号車には決勝でのリベンジに期待がかかる。

今回のレースでは給油を伴うピット作業を2度行う必要があり、それをどのようにこなすかがレース戦略上重要になる。

13時30分に2周のパレードラップが始まり、13時35分に決勝レースがスタート。9号車のスタートドライバーであるLiangは順調な出だしだったが、8周目に18号車がアクシデントに見舞われ、フルコースイエロー(FCY)からセーフティカー(SC)が導入された。そしてSC継続下で11周目にピットトレーンがオープンとなり繰々と300クラスの車両がピットインするなか、9号車もピットイン。

この時点で19番手を走っていた9号車、ここでタイヤ交換を行うことでのちのドライバー交代時のピットストップ時間を削り、ジャンプアップを狙う戦略に出る。しかし、タイヤ交換後にコースインしSC隊列に向かって追い上げようとしたところで予想より早くSC解除、完全ピットオープンとなってしまったため他車の先行を許してしまう。

直後の12周目で再度ピットインし給油を行うとともにドライバーがLiangから阪口へ交代。

ドライバー交代時には26番手だった9号車だが、阪口が42周目には10番手まで追い上げる猛追を見せる。しかし、徐々に気温が下がりラップタイムも伸び悩んできたため、川端へドライバー交代するためにピットイン。だが、ここでピット作業に思いのほか時間を要し、順位を一気に落としてしまう。

それでも川端がベースを保ちながら少しづつ追い上げていき、後半からのさらなるポジションアップが期待された59周目、日立Astemoシケインの手前で23号車と87号車が絡む大クラッシュが発生し、23号車の車両が大破。それにより当初はSCが導入されたが、直ぐに赤旗に切り替わってレースが中断された。

その後チーム監督がブリーフィングルームに招集され、大きく外側に曲がった安全防護柵の修復が最大レース時間内(17時30分迄)に完了する事が見込まれないとして、決勝レースはそのまま赤旗をもって16時24分に終了となった。

Rd.1岡山から車両を一新し心機一転挑んだ今回のレース。他車と比較して良いラップタイムを出していった時間帯もあっただけに、消化不良の悔しい結果となった。

## COMMENT



### エントラント代表 神野元樹

「開幕戦のクラッシュによりRd.2富士を欠場することとなりましたが、チームのみんなが急ピッチでセットアップをしてくれたお陰で、Rd.3鈴鹿にて皆様に再び姿をお見せすることができました。

今回のレースでは予選から苦戦する結果となりましたが、限られた時間の中でドライバー、メカニックが尽力したなかでのベストの結果だと思います。

最後に、SNSや鈴鹿サーキットの現地でファンの皆様、スポンサーの皆様、関係者の皆様に暖かい言葉をいただき感謝しかありません。Rd.4富士では今回の悔しさを晴らす結果になることを楽しみにしています。皆様、引き続き応援をよろしくお願いします。」



### 阪口良平

「まずRd.3鈴鹿に出場できた事にチームや関係者の方々に感謝を申し上げます。予選Q1ではA組10位という結果でしたが、事前テストが全く出来ていない割には可能性を感じられる内容となりました。

決勝では不具合もなく想像より良いペースで30LAPを走る事ができ、最終ステイントの川端選手へと託しました。ただドライバー交代の2回ともシートベルトを引っ張るゴムのフィーリングに手間取りタイムロスしてしまった事は反省し次戦に活かしたいと思います。

結果は赤旗終了と荒れたレースとなりましたがドライバーに大きな怪我は無かったと聞いて安心しました。Rd.4富士は私達のチームにとってチャンスだと思います。気を引き締めて全力で頑張ります。」



### Liang Jiatong

「9号車にとって、そして僕にとって久々のレースとなりましたが、全体的に難しいレースだったと感じています。

公式練習からAMGとの相性を確かめながらの走行となり、手探りの状態でした。

結果として、予選と決勝では少し苦戦することになりました。

しかし、チームメンバー全員がこのレースでの復活に向けて最善を尽くしてくれました。私は彼らの仕事に感謝し、大きな敬意を示したいです。

これからRd.4富士まで、しばらくはスパンが空きますが、Rd.4富士ではもっと強くなって満足いく走りをしたいと思います。」



### 川端伸太朗

「今大会も沢山の応援ありがとうございました。

フリー走行ではシェイクダウンという事もあり、トラブルが出てしまう痛手もありましたが阪口選手の予選タイムは素晴らしい、決勝に期待を持って挑みました。

私は最終ステイントを走り、コースインした時点で周回遅れとなってしまいトップ3台の後ろを走る事になりましたが、トップ3に追いついて行くスピードがマシンにあり、次戦に向けては収穫のあるレースだったと思います。

今大会は下位に沈んでしまい、マシンの修復に全力を注いでくれたチームの皆様、応援して下さった方への感謝を結果でお返し出来ませんでしたが、Rd.4富士戦はチーム一丸となって結果を求めて行きたいと思います。」

## PARTNERS



## SPONSORS



中日本氷糖株式会社

